きらぼし経済レポート

2026年11月16日

きらぼし銀行
法人営業推進部

9月の都内経済状況

項　目	天気図	コメント
現在の景気動向		9月の都内の景気は、一部に弱い動きもみられるが、全体として緩やかに回復している。スーパー、コンビニエンスストア、住宅着工、公共投資は前年を下回ったが、百貨店、乗用車販売、輸出は前年を上回った。2026年度の設備投資は増加見込み、経常利益は減益見込みとなっている（法人企業）。有効求人倍率は前月からわずかに上昇。企業倒産件数は2ヵ月ぶりに前年を上回った。
今後の見通し （3ヵ月）		都内の景気は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、緩やかな回復が続くことが見込まれる。物価高の長期化や節約志向の継続に加え、海外の景気や地政学リスクの高まり等が懸念される。
個人消費 百貨店売上高		百貨店売上高は、前年同月比8.7%増（既存店ベース）と9ヵ月連続で前年を上回った。気温低下を受けて秋物衣料が伸長したほか、外商催事を背景に時計・宝飾品など高額品が売上を牽引した。インバウンド需要も引き続き好調に推移した。
個人消費 スーパー売上高		スーパーの売上高は、前年同月比▲0.5%（既存店ベース）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。食品価格の上昇が売上高を下支えしたものの、長雨や台風など天候不順による来客数の減少に加え、節約志向を背景とした買い上げ点数の減少などが影響した。
個人消費 コンビニ売上（関東）		関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比▲0.4%(全店ベース)と3ヵ月ぶりに前年を下回った。東京都の売上高は前年同月比▲0.2%(全店ベース)と61ヵ月ぶりに前年を下回った。
個人消費 乗用車販売台数		乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比3.5%増と6ヵ月連続で前年を上回った。車種別では、普通車(同8.5%増)は6ヵ月連続、軽乗用車(同0.8%増)は3ヵ月連続で前年を上回ったが、小型車(同▲11.2%)は10ヵ月ぶりに前年を下回った。
住宅建設		9月の住宅着工戸数は、前年同月比▲1.2%と6ヵ月ぶりに前年を下回った。利用関係別では、持家(同19.3%増）、分譲一戸建て(同25.1%増)、貸家(同3.4%増)はいずれも6ヵ月連続、給与住宅(同81.4%増)は7ヵ月ぶりに増加したが、分譲マンション(同▲44.2%)は3ヵ月連続で減少した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比▲48.0%と5ヵ月ぶりに前年を下回った。発注者別では、国(同19.0%増)、独立行政法人(同77.6%増)は増加したが、都県(同▲7.3%)、市区町村(同▲55.3%)、地方公社(同▲26.3%)は減少した。
貿易 （東京税関管内）		東京税関管内の輸出額は、前年同月比15.4%増と34ヵ月連続で前年を上回った。主要地域別では、アジア向け(同13.9%増)は34ヵ月連続、アメリカ合衆国向け(同21.0%増)は6ヵ月連続、EU向け(同4.8%増)は14ヵ月連続、中国向け(同16.6%増)は7ヵ月連続で前年を上回った。
設備投資 （法人企業）		東京財務事務所「法人企業景気予測調査(7～9月調査)」によると、都内の法人企業（資本金1千万円以上）の2026年度の設備投資計画額は、全規模・全産業が前年比7.4%増の増加見込み、規模別では大企業が同6.8%増、中堅企業が同18.7%増、中小企業が同3.1%増といずれも増加見込みとなっている。
企業収益 （法人企業）		同上調査によると、都内の法人企業（同上）の2026年度の経常利益は、全規模・全産業が前年比▲0.1%の減益見込み、規模別では大企業が同0.2%増、中小企業が同4.5%増の増益見込みだが、中堅企業は同▲4.2%の減益見込みとなっている。
労働需給		有効求人倍率(季調値)は、1.71倍と前月から0.01ポイント上昇した。先行指標とされる新規求人数は前年同月比▲1.9%で2ヵ月ぶりに前年を下回った。南関東の完全失業率は2.4%と前月から0.1ポイント低下した。
企業倒産		企業倒産件数は、前年同月比4.7%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。負債総額は同▲38.7%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。業種別では、建設業(同▲43.8%)、卸売業(同▲35.5%)が減少、製造業(同37.5%増)、宿泊業、飲食サービス業(同20.0%増)などは増加した。
資金需要 （銀行）		日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」によると、9月の都内店舗の銀行による貸出残高は、前年同月比8.1%増と181ヵ月連続で前年を上回った。増加幅は前月から0.8ポイント減少したものの、高い伸び率を維持した。

工業生産指数（季調値） （　）は前年同月比%	工業在庫指数（季調値） （　）は前年同月比%	消費者物価指数 （　）は前年同月比%	（一口メモ）　来年度の人員の「不足感」はわずかに上昇 ㈱きらぼしコンサルティングが、同社の会員企業に対して11月に実施したアンケート調査によると、来年度の人員について「不足感を持つ」企業の割合は、70.9%と前年からわずかに上昇した。内訳をみると「足りないがある程度は確保できる」が1.7ポイント減少して37.2%、「不足である」は2.1ポイント増加して33.7%となり、不足感の強まりがみられる。
6月　109.4（　7.2） 7月　109.9（　4.0） 8月　109.1（　4.9）	6月　65.5（-32.9） 7月　67.8（-22.9） 8月　69.6（-18.5）	7月　102.0（ 1.8） 8月　102.3（ 1.9） 9月　102.5（ 2.7）	

＊工業生産指数・在庫指数は2020年平均＝100。消費者物価指数は2025年平均＝100。
＊工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	好調	やや好調	横這い	弱含み	やや低調	低調